

科目名 クラス 講義区分

国際法 <秋集>

【教員氏名】

軽部 恵子
研究室:聖アンデレ館 10階 1022号室
メールアドレス:

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

この講義では、国際法の基礎を学びます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を律する世界共通のルールだからです。国際法の勉強には世界史の基礎知識が必要不可欠です。国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論を履修するか、予め高校程度の世界史を自分で勉強して下さい。国際法の導入部分は国際機構論の前半と似ていますが、取り上げ方が大きく異なります。授業では、絵画、写真、ドキュメンタリー番組、史実に基づいた映画などの視聴覚教材を積極的に利用します。また、ドキュメンタリー番組や国内外のメディア(新聞社、テレビ局、通信社等)のホームページを教材として使い、メディア・リテラシーを学びます。国際法に関する重要ニュースは、随時取り上げます。

【学習目標】

- (1)国際法の基礎知識を習得する。
- (2)国際法の視点から国際ニュースを考察する。
- (3)国際問題の理解に必要な一般教養(歴史、文化、宗教など)を身につける。

【講義計画】

- 第1回:国際法とは何か
- 第2回:戦争と平和の法(1) 宗教改革から三十年戦争へ
- 第3回:戦争と平和の法(2) アメリカ独立革命とフランス革命
- 第4回:戦争と平和の法(3) ナポレオン戦争とウィーン体制
- 第5回:戦争と平和の法(4) ハーグ平和会議
- 第6回:戦争と平和の法(5) 赤十字国際委員会の設立
- 第7回:国際法の重要原則(1) 合意は拘束する
- 第8回:国際法の重要原則(2) 国際法と国内法との関係
- 第9回:国家(1) 国際法上の国家
- 第10回:国家(2) 属地主義と国籍主義
- 第11回:国家(3) 犯罪人引渡
- 第12回:国家(4) 領域① 領域の得喪
- 第13回:国家(5) 領域② 領土紛争
- 第14回:国家(6) 領域③ 無害通航権
- 第15回:国家(7) 領域④ 通過通航権
- 第16回:国家(8) 領域⑤ 持続可能な海洋資源の利用
- 第17回:国家(9) 領域⑥ 領空
- 第18回:国家(10) 領域⑦ 宇宙空間と核開発競争
- 第19回:国家(11) 国家責任
- 第20回:国家(12) 外交的保護
- 第21回:国家(13) 国籍
- 第22回:条約(1) 条約案の交渉
- 第23回:条約(2) 条約の署名と批准
- 第24回:条約(3) 条約の効力発生
- 第25回:条約(4) 条約の無効と終了
- 第26回:条約(5) 条約と国内法の関係
- 第27回:特別テーマ(1) 日本国憲法と日米安保条約
- 第28回:特別テーマ(2) 終戦と国際法
- 第29回:特別テーマ(3) 核軍縮の国際法
- 第30回:学期末試験とまとめ

【成績評価の方法】

試験評価:100% レポート:0% 出席:0%
成績は学期末試験のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くため、「出席点」にはなりません。講義時間内に行う小テストは、受講生が自身の理解度を確認するため、成績評価にまったく関係ありません。

【使用テキスト】

岩澤 雄司編集代表『国際条約集 2017』有斐閣

【参考文献】

尾崎久仁子他『ブリッジブック国際法』第3版 信山社 2016年
国際法学会編『国際関係法辞典』第2版 三省堂 2005年
庄司真理子・宮脇昇編著『新グローバル公共政策』改訂第1版 晃

洋書房 2016年

保坂俊司監修『決定版 よくわかる世界三大宗教』学研パブリッシング 2012年

中谷剛『アウシュヴィッツ博物館案内』新訂増補版 凱風社 2012年
バリー・パーカー『戦争の物理学:弓矢から水爆まで兵器はいかに生み出されたか』白揚社 2016年

【準備学習の指示(事前学習 60時間、事後学習 60時間)】

教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、教科書の関連部分および参考サイトで予習・復習してください。

【その他備考(担当教員用)】

①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。学期冒頭に配布します。

②教科書は第5回から毎回使います。教科書を持参しない学生に対する配慮はありません。

【備考(管理者用)】